

府中市議会 第11回議会改革特別委員会会議録（要約）

令和元年 5 月28日 午前10時50分、議会改革特別委員会を第一委員会室において開会した。

1 出席委員

委 員 長	三 藤 毅	副 委 員 長	本 谷 宏 行
委 員	加 納 孝 彦	委 員	安 友 正 章
委 員	土 井 基 司	委 員	加 島 広 宣
委 員	岡 田 隆 行		
副 議 長	大 本 千 香 子		

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事 務 局 長 赤 利 充 彦 議 事 係 長 小 林 正 樹

1 本日の会議に付した事件

- (1) 5月12日シンポジウムの総括について
- (2) シンポジウムアンケート集約の結果
- (3) 今後のスケジュール
- (4) その他

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

午前10時50分 開会

1 5月12日シンポジウムの総括について

講師の講演、パネルディスカッションなどについて次のような意見・感想が出た。

- ・初めての試みで、市民の方に来ていただいて、市民の方にいろんなことを知ってもらったことは良かったと思う。
- ・今までにない取り組みにより、議会としての思いが少しだけ伝わったと思う。
- ・運営の部分について、参加者からお聞きしましたところ、先生の講演の時間がもう少し長ければという意見があった。
- ・トータルの時間については適当であった。
- ・参加された市民の方は、大きな会場であったため、なかなか手を上げて発言は難しかったと思う。
- ・事前にチラシを配付して参加をお願いした方があまり参加されていなかったように思う。

- ・事前に声掛けした人の参加が少なく、参加数に寄与できなかった。
- ・事前に参加の声掛けを行ったが、そもそも若い人に声掛けできない自分の弱さがある。
- ・パネルディスカッションについて、パネラーの選考をもう少し吟味してもいいのではないかという市民の意見があった。
- ・シンポジウムを行う場合は、興味のある方は来られるが、興味のない方の参加をどう促すかが課題である。
- ・シンポジウムの参加数について、想像していたより多かったという印象である。
- ・多くの方に来ていただいて大変ありがたかった。
- ・来られた方の年齢層は50歳代以上が多く、若い人の関心が低いと感じた。
- ・江藤先生の話は非常に参考になり今後の議会改革には役に立つものであった。
- ・江藤先生の講演の中で、議員定数、議員報酬、政務活動費について、論点の整理をしていただいてわかりやすかった。
- ・パネルディスカッションについては、あまり面白くなかった。時間的な制限もあったのもあるが、ある人はしっかりとした意見を述べられたが、ある人はよく分からない話をされていた。
- ・シンポジウムにより、多少なりとも市民の方にインパクトを与えたと思うので、今回は良かったと思う。
- ・シンポジウムへの参加が思ったより多く、ケーブルテレビでも再放送していただいていることが大きいと思う。
- ・シンポジウムにより、来場者の方に少しは理解していただいたことは良かった。
- ・先生が言われていたが、講演とパネルディスカッションを行うなら3時間程度は必要であるとのことで、その点は反省点である。
- ・先生の話も飽きさせず、わかりやすく話をされた。
- ・先生話を聞いて、考え方が少し偏っていたと気づいた。
- ・先生話を聞いて思ったことは、「みんなで変えよう府中市議会への無関心」だと確信した。
- ・まずは市民の無関心から取り組みが必要である。
- ・運営については、議員が受付を行ったこともあり、スーツ姿で何人も並んでいたのも、少し堅苦しい印象を与えたのではないかと。
- ・少数ではあるが、若い男性、女性が来られたということは、産業博とあわせて行ったことが成果として出たと思う。
- ・参加数が多かったのは、産業博の会場の中で行ったことで効果があった。
- ・講演については、もう少し聞きたかった。

- ・パネルディスカッションについては、思うことを言えない状況はあると思うが、勇気をもって持論を述べていただいたことに感謝したい。
- ・パネラーの意見は率直だったので、聞き逃さないように整理していかないといけない。
- ・若い人や子育て中の女性がパネラーとなったことで、シンポジウムに行ってみようという動機付けにもなったと思われる。
- ・今後も同様の催しを行う場合は、議会に関心が低いと思われる年齢層の方に参加してもらうことで効果がある。
- ・何らかの形で、こういった取り組みを続けることも考える必要がある。
- ・議会として何を変えるのかという意見に対して、議会としての構えが不十分である。
- ・議員の活動が見えていないことを感じた。
- ・何を変えるのか、市民の方に伝え切れていない。
- ・講師の話の時間が短かった。
- ・パネルディスカッションは、限界があるので今回は良かったと思う。

2 シンポジウムアンケート集約の結果

(1) アンケート集計男女別、集計年代別を検証した。

〔アンケート集計男女別、集計年代別のまとめについて事務局長から説明〕

自由記述の主な内容は次のとおりである。

- ・議員の活動はあまりわからない。
- ・議員定数を削減して、報酬を増額してはどうか。
- ・若いパネラーの意見には共感できる。
- ・議員の大変さは伝わったが魅力は伝わってこない。
- ・トイレや議場の改修など議会の環境整備を行うべき。

(2) アンケート集計について次のような意見・感想が出た。

- ・シンポジウムの時間が限られた中で、男女別、年代別にみても意識は変わっているので、こういった取り組みを重ねることで理解の向上は望める可能性が見えた。
- ・シンポジウム参加後に議会、議員のイメージが3分の1の方が変わったとあるが、3分の2は変わっていないのではないか。
- ・議員の生活がわからない、議会後の活動が全く見られない、議員は何をしているのかわからない、議員の日々の行動がわからない、こういう意見は何か役に立ちそうである。
- ・議員に魅力がないから、会社を辞めてまで選挙に出る気はしない、選挙に出るには支援者や資力がないといけない、落選後の受け皿の問題などの記述を見て、なり手不足はいろんな要因があるのだと思った。

- ・アンケート結果では、50歳代、60歳代の方は、議員定数、報酬は現状維持でいいという意見が多く、70歳代以上の方は厳しい意見が多い理由も把握する必要がある。
- ・議会を変えてほしいという前向きな意見を持った方や議会や市政に対して興味を持っている方が参加された中でのアンケート結果であることから、これが市民の意見であるとは言えない。
- ・会場アンケートと市民アンケートの両方で検証が必要である。
- ・アンケートの中の厳しい意見には、今後応えていく必要がある。

3 今後のスケジュール

〔今後のスケジュール（案）について事務局長から説明〕

- ・市民アンケートの提出期限は6月末となっている。
- ・10月までスピード感を持って進める。
- ・答申素案の発表は10月中旬頃。
- ・答申素案を元に議会報告会で市民の意見を聞き、その後答申行う。
- ・報酬審議会へ諮る必要が生じた場合は、11月から3月議会の前までに答申が必要。
- ・関係条例の改正が必要な場合は、2月頃までには条例の改正案の作成。

〔意見交換〕

意見交換により次の通り決定した。

- ・3月議会で条例改正が目標ではあるが、3月議会での条例改正ではなく3月議会までに答申を行うという柔軟な日程も可能とする。
- ・今後、①定数、②報酬・政務活動費、③なり手不足の3つに分けて協議することとし、各項目ごとに3回程度計9回の協議を行い素案を出す。
- ・定数・報酬・政務活動費については、市民アンケート集約後とし、先になり手不足について協議することとする。

4 その他

次回の委員会は6月12日に開催することとし、その時までに班を編成して調査を行うこととした。

- ・なり手の掘り起こし、環境整備について（本谷、安友、加島）
- ・市民への情報発信について（岡田、土井、加納）

午後0時57分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

令和元年6月4日

府中市議会改革特別委員会

委員長 三 藤 毅